

平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

子どもを取り巻く社会環境、生活様式が大きく変化する中、子どもの体力・運動能力の低下が指摘されています。そこで文科省では、平成20年より小学校5年生及び中学校2年生の男女を対象に、現状を把握しその改善を図るために「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を毎年実施しています。調査種目は、実技調査が握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・20メートルシャトルラン（中学2年生は、持久走との選択制）・50メートル走・立ち幅とび・ソフトボール投げ（中学2年生は、ハンドボール投げ）の8種目と、生活習慣や食習慣、運動習慣なども調査しています。

今年度の結果は、11月11日に文科省から公表されました。それによると、本道の子どもたちの体力・運動能力は、依然として全国平均を下回っているものの、実技では、小学校男女の「握力」「ソフトボール投げ」、中学校男子の「握力」で全国を上回り、前年度に比べ全国との差が縮まっていることが明らかになりました。



本町の小・中学校の児童生徒の結果は、以下の通りです。

まず小学校男子は、「20メートルシャトルラン」を除いて全国と同程度、または全国より上回っていました。特に、「握力」や「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ハンドボール投げ」は大きく上回り、体力及び運動能力の高さを示しました。

女子は、「上体起こし」「20メートルシャトルラン」「50メートル走」こそ振るいませんでしたが、「握力」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」は全国より上回り、特に「長座体前屈」は大きく上回りました。また、児童質問紙では、「運動やスポーツをすることが好き」「やや好き」と回答した児童が全国と同程度でした。

一方中学校男子は、全ての種目で全国を上回り、特に「上体起こし」では大きく上回りました。女子は、「長座体前屈」と「ハンドボール投げ」で全国を上回りましたが、その他の種目では全国・全道を下回る結果となりました。しかし、生徒質問紙では、「運動やスポーツをすることが好き」「やや好き」と回答した生徒が全国を上回り、今後の伸びに期待ができる結果となりました。



以上の結果から、本町の児童生徒の体力・運動能力は「全国と同程度」と捉えることができます。このことは、児童生徒が日頃より運動に親しんでいることが好成績につながったと考えられ、特に各家庭において、学校と一体となった運動習慣を含めた生活習慣の確立に向けた取組みの結果と言えます。



体力は、あらゆる活動の源として、健康の維持のほか、意欲や気力の充実にも大きくかわり、子どもの時期からしっかりと身に付けさせることがとても重要です。そのため小・中学校においては、体育授業の改善は勿論のこと体力向上を目指した「1校1実践」の取組、歩数計を使った実践に取り組んでいます。また、教育委員会でも「わっさむフレンドパーク」を始めとして、様々な事業を通して体力向上をサポートしています。

今後も、子どもたちに、学校の教育活動や家庭生活を通じて、運動や外遊び、スポーツの楽しさを実感させ、運動習慣の定着や生活習慣の改善をご家庭とともに図っていきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

お問い合わせ：教育委員会庶務学校教育係 TEL 32-2477

選挙管理委員会委員長、職務代理者決まる

任期満了に伴い選挙管理委員会委員が改選され、12月24日開催の委員会で互選により下記のとおり委員長等が選出されました。（敬称略）

委員長 坂本 廣志（南町）

職務代理者 茶円 宥正（西町）

委員 森本 岸子（三笠）

委員 山住 浩（中和）